

第1分科会

第1部 ーパネル討議ー

「これからの地域社会づくり」

■コーディネーター

吉田 成良

高連協専務理事、エイジング総合研究センター専務理事

■発表者

佐藤 広毅

横浜市健康福祉局企画課長

馬 利中

上海大学教授



〔はじめに／分科会の趣旨説明〕

吉田：この第1分科会のテーマは、「これからの地域社会づくり」。分科会第1部では、急速に進んでいる長寿化少子化や家族形態の変化を、横浜市と上海市の実状からご紹介頂きます。それを踏まえて、一家一族では対応できない状況の中で、要介護高齢者等をいかに支えていくかの現状課題について、「地域社会」で考えよう、支えてゆこう、その方策をつくろう、というのが第2部のパネル討議のテーマです。また、パネル討議では、地域社会づくりに求められる基礎自治体と住民との相互理解と協働について、その事例や経験を伺い、その上で堀田さんが只今掲げておられる「地域包括ケアのまちづくり」を伺い、パネル討議「地域で支え合う仕組みづくり」を参加者全員で語り合いたいと思います。

〔各発表者からの報告〕

◆佐藤 広毅（横浜市健康福祉局企画課長）

○人口、世帯数に見る横浜市の高齢化の状況

横浜市の人口は、平成23（2011）年10月1日現在369万2,523人で、日本の基礎自治体のなかで最大の市であり、47都道府県と比べても11番目の人口規模となっており、最大の東京都1,200万人の約3分の1に匹敵します。先行きを予測しますと、横浜市の人口は、2020年まで増え続け、ピークの2020年の374万7,000人を境にその後は少しずつ減少していきます。2055年では、321万4,000人にまで減少すると予測しています。

